

# やまと 民俗への招待

鹿谷 勲

新しい年を迎えた。2022年はコロナ流行3年目でもある。年頭の街に華やかな空氣を感じられない。昔、ほとんどすべての自動車が、前面に小さな注連縄を飾り付け走っていた光景を思い出す。近鉄奈良駅の地下ホームで、運搬用の小さな手押し車にさきやかな輪注連が結ばれていた光景もよく覚えている。毎日使う道員にも正月を迎えることを思って、かっこいいと云う人が町なかにもいた。

正月を迎える喜びを表現する言い習わしに「正月来たら何うれし、お雪みたいなママ（御飯）食べて、ワルキ（割木）みべて、ワルキ（割木）みべて、ワルキ（魚）そえて、火盆にあたってねんねしょ」というのがある。時に「お月さんみたいな餅たべて」ともいわれるが、麦の混じらない真っ白な御飯や割木のようないわダラなどを見つめる

022年はコロナ流行3年目でもある。年頭の街に華やかな空氣を感じられない。昔、ほとんどすべての自動車が、前面に小さな注連縄を飾り付け走っていた光景を思い出す。近鉄奈良駅の地下ホームで、運搬用の小さな手押し車にさきやかな輪注連が結ばれていた光景もよく覚えている。毎日使う道員にも正月を迎えることを思って、かっこいいと云う人が町なかにもいた。

正月を迎える喜びを表現する言い習わしに「正月来たら何うれし、お雪みたいなママ（御飯）食べて、ワルキ（魚）そえて、火盆にあたってねんねしょ」というのがある。正月の神は「正月ドン」、「歳徳さん」、「福丸さん」などと呼ばれるが、清潔で暖かい所を好むのだ。

香芝市五ヶ所では「正月ドンドコまで、クロク山のすそまで、オウカイドウ、オウカイドウ、アカイドウの道で、尾のある鳥と尾のない鳥が竹の籠くわえてコケコッコ

子供の驚きの視線がある。正月の神が訪れるさまを歌にしたものも各地で聞かれる。正月の神は、神社や家で祀られている神とは異なり、どこからか、やってくる神と意識されていたようだ。奈良市七条町で、屋内をきれいに掃除をして、「ぬぐぬぐくう」しておいたら、来てくれると言ったことがある。正月の神は「正月ドン」、「歳徳さん」、「福丸さん」などと呼ばれるが、正月の神は、元興寺の鬼の類のように思う。元興寺の鬼に驚いて、正月さんは便所に隠れてクソまみれになるというのだ。

かつて町史民俗編の調査をした滋賀県山東町（現米原市）では「正月ツアン正月ツアン、じこまでおいでた、馬場でバコいて、新庄で尻拭いえりおつかえり、おつかえりの道で、カンコウロ」ともつながらって、命の更新に関わっているのだろう。



杵築神社の初詣風景＝奈良市一ノ町で筆者撮影

## 正月ドンと便所とお産

（奈良民俗文化研究所代表）